

北東アジアの港湾・クルーズ活用 による観光創造を目指して

江戸川大学社会学部
崎本 武志

「北東アジアの港湾・クルーズ活用による観光創造」 目次

1. 姉妹都市・友好都市を活用した港湾・クルーズ観光
 - ・韓国・中国との教育旅行(学校間相互交流)活性化
 - ・福井・敦賀港の事例検討
2. 観光資源・観光コンテンツとしての港湾・クルーズ
3. 港湾における観光資源・観光コンテンツの創造
 - ・レトロ景観PR(佐渡・宿根木、富山・新湊、山形・酒田)
4. クルーズ船の活用戦略
 - ・根強いニーズと乗客間ネットワークで需要回復へ
 - ・多分野活用の提案—医療・介護・教育などへの応用
 - ・姉妹都市ベースで大学単位での交流

1. 姉妹都市・友好都市を活用した港湾・クルーズ観光

- 2018年10月26日・27日に中国江蘇省蘇州市で開催された、日中韓3国観光大臣会議で、「日中韓観光交流の新時代」「文化を活用した観光の推進」「観光交流の質の向上」を柱とした共同声明が発せられた。
- このなかで、より具体的な方向性としては
 - (1)東アジアで連続して開催される夏季・冬季オリンピックを契機として観光客誘致への取り組み
 - (2)便利な観光査証政策や迅速な通関手続き、決済方法の導入
 - (3)日中韓教育旅行シンポジウムの開催の支持やガイド、ホテル、観光地などの交流プロジェクトによる3カ国の観光業界の発展
 - (4)「ビジット・イースト・アジアキャンペーン」の推進による3カ国周遊観光商品の開発などによる、東アジアへの観光客誘致の取り組み
ーなどが盛り込まれた。

韓国・中国との教育旅行(学校間相互交流)活性化

- ・基本的には韓国の修学旅行は学校間の相互交流がベースになっていたことから、日本から韓国・中国・台湾などに修学旅行に行くときには現地の学校との交流がベースとなるが多かった。
- ・具体的な方向性の(3)に挙げられた、「日中韓教育旅行シンポジウムの開催」については2000年代には活発に行われていたが、2014年を最後に行われていない。
- ・2011年に嘗ての日華連絡船と同じ長崎—上海間を結ぶ航路がHTBクルーズ(本社・長崎県佐世保市)によって開設され、日中の修学旅行を中心とした相互交流が行われていたが、2013年に休止。
- ・政治情勢の悪化が休止の原因だと考えられるが、コロナ禍収束で復活が期待される分野である。

福井・敦賀港の事例検討

- 現在敦賀市では「鉄道の街」を標榜し活動を展開している。
- 具体的には嘗て敦賀駅から敦賀港まで延伸していた鉄道路線と駅舎を文化遺産として保存し、観光活用を目指している。
- 千原氏の姉妹都市・友好都市でも話があったが、敦賀はロシア・ヴォストーチヌイ港（ナホトカ）と姉妹港を締結している。
- 昭和初期のユーラシア大陸紀行（日本航路～シベリア鉄道）のツアーを復興させ、クルーズと鉄道との連動性を図るなど、生きたかたちでの航路復活が期待される。

旧敦賀港駅 駅舎



2. 観光資源・観光コンテンツとしての港湾・クルーズ

- ・鉄道にまつわるヘリテイジをシンボルとして位置付けた敦賀港の事例のように、まちづくりの一環として観光資源・観光コンテンツを創出していくことが重要！
- ・敦賀の例であれば往年の航路復活など、徹底したコスト消費への対応を行っていただきたい！
- ・躍起になって大型船舶や大型クルーズを誘致するのではなく、大型クルーズに「ぜひ寄港したい！」と選ばれるまちや港づくりを目指すことが重要！

クルーズ船を運用されている皆さまへ【佐渡島
への寄港をご検討ください】

佐渡島の概要

佐渡島は日本海の沖合約40kmに位置し、面積は856平方キロメートル、海岸線が280kmある日本海側最大の離島です。その大きさは、国内では東京23区や淡路島、海外ではグアム島やプーケット島の約1.5倍の広さがあります。島の気候は沖合の海流の影響から本土に比べ温暖で降雪量も少なく、夏涼しく冬暖かく過ごしやすい環境となっています。島には寒暖両系の様々な植物が自生しており、海産物はたより、米や果樹などの多種多様な農産物を豊富であり、一年を通じて食材にも使われています。

このようなPRを何
度行ってもクルー
ズ船は寄港しませ
ん！恐らくですが
「寄港のご検討」も
されません！
しかし！のちほど
言及しますが世界
遺産に選ばれれば
間違いなく状況は
一変します！

3. 港湾における観光資源・観光コンテンツの創造

- 近年、ダム・橋・港・歴史的な施設等、インフラ施設を観光するインフラツーリズムが注目され始めている。
2016年頃より国土交通省や地方自治体を中心として全国各地でインフラツアーが実施されている。
- インフラツーリズム（英：infrastructure tourism）とは、公共施設や社会資本などのインフラストラクチャーによる土木景観を観光資源と位置づけ、実際に現地へ赴き観光・旅行をする行為を指す和製英語である。多くの関連施設を管理する国土交通省も積極的な利用を奨励しており、政府が推進する訪日外国人旅行の増加手段の一つの柱として位置付けている。
- インフラツーリズムの取組は、各施設で様々な工夫を取り入れ、年々充実している。

レトロ景観PR(佐渡・宿根木、富山・新湊、山形・酒田)

- ・中でも、これまでの日本に無い港湾観光のスタイルは、港湾におけるレトロ景観を活用したものである。
- ・これはインフラツーリズムとヘリテイジツーリズムとのコラボレーションであり、アフターコロナのインバウンド観光に活用したい。
- ・とりわけ三菱長崎造船所の「ジャイアントガンチカバークレーン」「第三船渠」「小菅修船場跡」「旧木型場」「占勝閣」は、2015年に「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に認定されている。
- ・国土交通省北陸地方整備局が打ち出した「日本海北前船構想2030」は現役での船舶・港湾における貨客両面のロジスティクス復興を目指したものであるが、これを機会に観光遺産にも光を当て、レトロ景観の掘り起こしにも注力すべきである！

佐渡市宿根木地区

宿根木ホームページ<http://shukunegi.com/>より引用



廻船業で栄えた江戸時代の面影を今に伝える宿根木の町並み

📍 お知らせ

📧 お問い合わせ

ENGLISH

| 宿根木とは

| まち歩き

| お食事処

| お宿案内

| 施設紹介

| 交通案内



世界遺産「次は佐渡」 高まる期待

新潟県内、縄文遺跡群の登録勧告を祝福

2021/05/27 13:00

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関は26日、青森市の三内丸山遺跡など17遺跡で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」（北海道、青森、岩



佐渡島の金山を象徴する道遊の割戸

手、秋田）を世界文化遺産に登録するよう勧告した。同日、「佐渡島（さど）の金山」の世界遺産登録を目指す新潟県や佐渡市の関係者からは祝福と共に、「次は佐渡だ」と、本年度の国内推薦決定を期待する声が上がった。

県世界遺産登録推進室の小田由美子室長は「（縄文遺跡群の）関係者の努力が報われた」とたたえる。「今回の登録勧告は励みになる。佐渡も続けて国内推薦をいただきたい」と意気込んだ。

もし今回、縄文遺跡群が登録勧告を得られなかった場合、国が縄文遺跡群を再推薦する可能性があった。推薦枠は年に1国1件と制限されているため、佐渡金山の推薦実現が先送りになる懸念もあった。佐渡市世界遺産推進課の下谷徹課長は「登録勧告が順調に決まって良かった。次は佐渡だという気持ちで準備を進めていく」と力を込めた。

佐渡市の市民団体「佐渡を世界遺産にする会」の中野光会長は「ぜひ今年、佐渡を国内推薦に選んでもらいたい。会として、島民一人一人が遺産に関心を寄せていく機運をつくりたい」と意欲を語った。

2021年5月「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録が確定視されたことにより、次回は「佐渡市・金鉱山」の世界遺産登録が期待されている！コロナ禍で遅れているが順当にいけば2023年に登録予定！



伏木富山港・新湊内川地区の街並み（日本のヴェニス！？）

[LINEトラベルjp 旅行ガイド \(travel.co.jp\)](https://travel.co.jp)より引用

北前船で賑わった酒田港は「新潟・庄内 ガストロノミー」とのタイアップで！



酒田港を代表する建造物である山居倉庫（さんきょそうこ）は明治26年（1893年）に建てられてから120年以上を経た今日でも、現役の米穀倉庫として使われているとともに、酒田を代表する歴史、観光、そして景観資産として、広く国内外にその名を知られている。

4. クルーズ船の活用戦略

アフターコロナにおけるクルーズ復活に向けた対応策として必要であると考えられるポイントとして、

- 根強いニーズと乗客間ネットワークで需要回復へ
- 多分野活用の提案—医療・介護・教育などへの応用
- 姉妹都市ベースで大学単位での交流

の、以上3点について当初は検討していた。

しかし！現実には予想の遥か上を行っていた！



2025年 新造客船就航 UNVEILED!

ペールを脱ぐ“飛鳥ラグジュアリー”という新基準。THE “ASUKA LUXURY” BEGINS

郵船クルーズが飛鳥Ⅱの後継となる新造船の導入を決定！2025年にデビュー予定！

- 2021年3月末、郵船クルーズはドイツの大手造船会社 MEYER WERFT(マイヤーベルフト)と新客船(51,950トン)の造船契約を締結！
- 最新の感染症対策設備を備えるほか、乗客1人当たりのスペースは世界でもトップクラスの広さを確保！
- 和のおもてなし(飛鳥Ⅱで評判の展望露天風呂も導入予定！)に最新のテクノロジーを加えた「飛鳥ラグジュアリー」の幅広い年齢層への提供を目指す！

ダイヤモンドプリンセスや飛鳥Ⅱの引き返しなどコロナ禍でクルーズにとって逆風下だがなぜ多額の投資が行われたのか？

- 新規建造船の資金調達は、郵船クルーズの株主でもあるアンカー・シップ・パートナーズ社の船舶投資ファンドによって行われた。
- さらに、アンカー・シップ・パートナーズ社の船舶投資ファンドには国内30以上の地方銀行が参画している。

理由①地方創生の取り組みで新船への期待大

- 「クルーズ船は日本各地から、乗客を地元の港に連れてきてくれるだけでなく、そこから地元のツアーを楽しんでもらったり、食材を味わってもらったりと、付随的な効果も様々あります。コロナにより人の移動が制限され、短期的な不確実性が高まるなかでも、『飛鳥』の実績と将来性から、各地の地方銀行に力強くサポートいただきました」(アンカー・シップ・パートナーズ 篠田哲郎社長)

理由②新造船の環境性能で日本船籍初の技術が搭載されたことによりESG投資として認定された！

- ・エンジンはLNG（液化天然ガス）、ガスオイル、低硫黄重油と3種類の燃料に対応。
- ・錨を下ろさず船を停める機能を有し海底植物の損傷を防止する。
- ・感染症対策強化の一環として100%外気取り込み方式の換気システム、タッチレス対応エレベーターなどの設置を予定。

ESG (Environment Social Governance) 投資

- ESGとは、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字を取ったもの。
- ESGの観点は、企業の株主である機関投資家の間で急速に広がっており、投資の意思決定において、従来型の財務情報だけを重視するだけでなく、ESGも考慮に入れる手法は「ESG投資」と呼ばれている。
- SDGsが注目されている現在、このようなESG投資によってクルーズ・港湾が発展するのは新しい潮流である。今後もこの潮流をうまく取り込むことが望まれる。

まとめ

- コロナに関係なく中国・韓国・ロシアなどとは、現在修学旅行などの相互交流が途絶えていたので復活が望まれる。
- 港湾をベースにした観光まちづくりによってクルーズ船に選ばれる港になることが重要！ インフラツーリズムとヘリテイジツーリズムのコラボレーションによるレトロ景観は今後観光による活性化が期待できる。
- 地域活性化とSDGsの両面が期待され、多くの地方銀行からESG投資を受けて飛鳥Ⅱの後継新造船のが建造が決定した。日本海北前船構想を含め、アフターコロナを見据えた投資活動が活発であることは心強い。

ご清聴いただき
ありがとうございました。

崎本 武志